

# 未来に繋ぐ<sup>つな</sup>みのかもの70年

第24回

## 「文化のクロスロード」美濃加茂市のこれから

問 みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム ☎ 28-11110

美濃加茂市は「飛山濃水」とうたわれる岐阜県を凝縮したように、豊かで変化に富んだ自然環境に囲まれていきます。市域を特徴付けるこうした地勢や風土は、このまちの進展や変化と、密接に関わってきました。

市の北部地域は緑溢れる山林が広がり、その間を縫う長良川水系の川浦川や蜂屋川といった支流はネコギギやホタルなど豊かな生態系を育んでいます。1995(平成7)年4月には「みのかも健康の森」が誕生し、自然を利用した健康づくりの場が創出されました。2014(平成26)年4月には「里山千年構想」の事業が具体的に始動



▲「里山千年構想」  
『広報みのかも』2014年  
5月1日号)

しており、市域全体を「里山都市」として位置付け、かつての営みに学びを得ながら、自然と人間が共生する持続可能なまちづくりが目指されています。

南部では飛驒川と合流した木曾川が滔々と流れています。ライン下り事業や盆踊り大会をはじめ、木曾川一帯の空間は常に地域のにぎわいの中心でした。時には豪雨災害などで私たちに牙をむきますが、そのたびに復興を重ねながら、川とのつながりを保ち続けてきました。2018(平成30)年には、御門町に「リバーポートパーク美濃加茂」がオープンし、この場所を拠点として川を生かした先進的で特色のある取り組みが推進されています。

市域には古くから中山道や飛驒街道などの主要街道がめぐり、そこは絶えず人々が往来し、情報が行き交う場所でした。鉄道網や幹線道路が整備された現在も、変わらず交通と文化の中心であり続けています。美濃加茂市域は、



▲鳩吹山からみた美濃加茂市域(「美濃加茂市文化財保存地域活用計画」(2024年)表紙写真)

山地と平地、東と西の境であり、道と水路が交差する歴史と文化の交わる所、人と人をつなぐ結節点でもあります。こうした美濃加茂市特有の環境が魅力ある資源となり、これからも多彩な営みが展開されていくことでしょう。

※2年間にわたり連載してきました「未来に繋ぐ みのかもの70年」は、今回で終了します。本連載を通して、私たちが生きる市の歩みを見つめ直し、未来について考えるきっかけとなれば幸いです

### Pick Up 「より身近に木曾川を」

木曾川沿いの雄大な景色が楽しめる「日本ライン下り」は、市の観光の目玉として全国に誇る事業でした。しかし、多いときには年間33万人を数えた乗船客も、観光スタイルの変化や時代の変遷によって徐々に減少し、2012(平成24)年をもって事業は終了しました。現在その乗り場跡は、かつて主流だった「遊覧」という形から、人々が自らに川に関わっていく「親水」空間へと生まれ変わり、川と街、人と人をつなぐさまざまな活動が行われています。



▲絵葉書 (日本ライン)